

「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年9月3日(金) NO16 文責 木下 文秋

将来の夢

皆さんの将来の夢は何でしょうか？ここではその夢を「将来の職業」としましょう。どのような仕事に就きたいと考えているのでしょうか？警察官、看護師、公務員、福祉関係、建設業、農業…いろいろな職業があります。私は今教員という仕事をしていますが、実は大学を卒業する時に、教員以外にもうひとつ目指す職業がありました。教員を目指したのは保健体育の先生になりたいと思っていたからです。もうひとつ、それは私がまだ中学生の頃、自宅のすぐ隣で火災が起きたことによります。真夜中にすごい音で目覚めて、カーテンを開けたら、外が火の海でした。恐怖でおののく私の目の前で、^{ゆうかん}勇敢に火の粉に立ち向かう消防士の姿に圧倒されたのです。それから人命救助を天職とする消防士という職業に強いあこがれを持つようになりました。悩んだ末、結局教師の道に進みましたが、消防士をあきらめた理由は^{きさい}些細なことでした。最近では教師を目指す若者が減って、採用試験の倍率は低下しています。教職に魅力がないのは残念な気がします。確かに私が採用された昭和と今では、世の中の状況が一変して、昔の当たり前が全く通用しなくなっています。教育の仕事は今日、明日、一年後に成果が出ることはあまりありません。ひょっとしたら一生、教育の成果が姿を見せないことがあるかもしれません。話は変わって、私は昨年9月に父親を亡くしました。一年間病院に入院をして、コロナの影響で殆ど面会もできない苦しい闘病生活でした。その一年間で看護師やリハビリの方々には本当にお世話になりました。病んだ父親の面倒を看てくださる介護や医療関係者に対しては感謝の念しかなく、いつも明るく前向きに父親と接してくださる姿に胸が熱くなりました。世の中には色々な仕事がありますが、全ての職業は、人の生活を支え、世の中を豊かにすることにつながっています。今年のパラリンピックで難民選手団の世話をしている人が「人のために仕事をするとき、一番頑張れるし強くなれる」と発した言葉にとっても感銘を受けました。皆さんも、将来自分がどのような世界で仕事をしているか未来予想図を描いてみてください。そうすることで自分の進路選択の道しるべが明確になると思います。ところで、私が消防士になる夢を断念した理由は、高所恐怖症で消防車のはしごに乗る自信がなかったからです。残念。